

# 市民ホール(芸術文化創造センター)建設は市民合意で

ホールは市民と共に造り  
介護は事業所・利用者の負担にならないように住民福祉の充実を

入札不調の原因を徹底して検証すべき



田中りえ子議員

田中利恵子議員は、芸術文化創造センター整備事業について、平成27年7月の入札不調の原因について、市は復興やオリンピックで資材費、人件費が高騰、型枠職人が不足していると述べているが、どのくらい高騰し不足しているのか。入札金額が約94億で設定金額の約73億円を大幅に上回っているが、なぜそうなったのか、積算根拠は十分解明されていないと指摘。入札不調の原因を徹底的に検証することを求める中で、入札不調の原因を改めて質問。

デザインは防音、音響、防水耐震性に優れている

次に建物の構造に関して、現設計は鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造となっている

現設計を生かし建設を



吉田ふくじ議員

吉田議員は、芸術文化創造センター整備事業について質問しました。入札不調の対策として現設計者からの分割工事提案をなぜとりあげないのか。そして、分割工事提案について設計者はどの様に考えているのか、意見交換会で市民は分割工事案を支持していたが、その理由を伺いたい。

【答弁】9月の意見交換会において設計者の新居千秋氏から、小ホールを除けば現行予算73億円以内で落札可能。照明など工夫すれば大ホールを小ホールのにも使用でき、開館も最短にできる。ランニングコストも減るなどと説明された。しかし分割工事では入札不調のリスクが残り、将来小ホールを整備するとすると建設費がかさむことになる。小ホールは市民要望が高いことから、分割工事とはしなかった。

事業提案で基本計画は守られるのか

次に、資材や人件費の高騰で入札不調が

が、防音、音響効果、防水、耐震性に優れている。しかし、市はコンクリートの打ち出し、躯体にコンクリート、デザインコストが極めて高いなどと批判的な印象を受けるとある。また一方では音響等に優れているとあり矛盾を感じる。なぜ鉄筋コンクリート造を採用し、それを良いとされて来たのかと質問。

最後まで市民検討委員、専門委員などの市民ワーキングの重視をすべき

次に入札不調を受け今後の対策については、これまで共に議論を積み重ねてきた市民検討委員などの市民ワーキングを開きそこで考えるべき。なぜ市長・執行部で一方的とも思えるサンディング調査をし、方向性を示すに至ったのかと批判。市民説明会では入札不調後、市民ワーキングに戻してほしかったとの声があつたがその通りでホール整備は市民と共に造るプロセスを最後まで大切にすべき。勝手に進めている市長の姿勢に怒り心頭である。今後の対策は市民ワーキングの開催、そこでの議論をすべきと求めました。

起きたが、事業提案で大ホールと小ホールの整備が本当に可能なのか。事業提案と分割工事案について市民・議会・現設計者等で検討する必要があるのではないかと質問。

【答弁】公募型プロポーザルの実施に向け基本計画をベースに「要求水準」を作成し、小ホールを含めた整備を追及する。入札金額が予定価格を20億円以上超過するという厳しい局面の中で、市政全体における事業推進と財政運営の最善化をはかる選択であり、改めて検討する考えはない。

【意見】最後に分割工事については、現行予算内で落札の可能性が高いこと、大ホールを小ホールのに使えること、ランニングコストも軽減できること、小ホール予定地をイベント広場とすることで街の回遊性が高まること、設計図があるので、将来いつでも小ホールの建設が可能である。東京オリンピック・パラリンピックを控え、遅れば遅れるほど、建設時の状況は悪くなつていきます。市長も言っているとおり、多くの市民が芸術文化創造センターの整備を望んでいます。それなのに、なおさら、最も早く整備出来る分割工事が一番ですと主張し、現設計を生かした建設を強く求めました。



これまでみなさんと一緒に課題や実績にとり組んできました

事業もにらみながら総合的に検討するとしています。あと一歩です。県西地域で



関野たかし議員

課題

★小児医療費助成の中学校卒業までの無料化と、所得制限の撤廃  
子どもの貧困化が問題になっている。安心して子どもを産み育てられるまちづくりが本当に求められています。市は他の

★3大事業(ホール、地下街再生、駅前再開発)の課題  
★安保関連法案(戦争法案)廃案を求める意見書の提出、戦争法案反対の慶応義塾大学名誉教授の小林節さん講演会のとおり組み、錦通り商店街・ポケットパークでの戦争法

要支援1、2の方の介護サービスの充実と事業所の安定した経営は必須

次に新たな介護保険の予防給付・日常生活支援総合事業について、要支援1、2の方が利用する、訪問介護、通所介護が、市町村が実施する総合事業に移行となる。平成27年度から介護報酬の大幅引き下げがされたが、総合事業への移行で、居宅サービス事業所の経営に悪影響を及ぼさないのか、また利用者に悪影響を及ぼさないのか質問。

【答弁】資材費、人件費の高騰、実施設計のデザイン。改めて市民ワーキングを開催し議論する考えは無い。事業所の経営に影響を及ぼすことはない。利用者に悪影響を及ぼすことは無い。

住宅リフォーム助成制度について

小田原市の住宅リフォーム助成制度は他市にない独特のもので、地域循環型住宅リフォーム支援事業として、工事費が10万円以上の住宅リフォームに適用されるものです。そして、補助金ではなく、地場産品、お食事券等5万円相当の商品を進呈するものです。小田原市の地場産業を振興するというところで、大変意義のあるものです。昨年7月1日(水)〜7月15日(水)に30件の募集を行ったが、①何件応募があつたのか、②落選した人への対応は、③アンケートの声は、④工事総額は、⑤経済波及効果はどうであつたか、以上5点について質問しました。

【答弁】応募件数は35件、抽選で30名当選。落選した5名のうち3名が補欠登録し、当選者3名の辞退があり、補欠者全員繰り上げ当選した。地場産品については選ぶ楽しみがあるなど、好評。助成制度を知ってリフォームすることにした、あるいは時期を早めた人が約80%。工事総額は応募時点の見積もり総額で1976万円。経済波及効果の検証はしていないが、幅広い業種に及んでいることから、波及効果はあつたと見ている。手続きを極力簡素化したことが歓迎されている。本事業は来年度も継続する。

実績

- ★河川改修 谷津川の改修
- ★山岸川の草刈り
- ★西大友新鮮館そばのガード
- ★西大友新鮮館そばのガード
- ★新幹線対策など
- ★水道の水漏れ改修促進
- ★文化財や観光案内表示板などの点検改修
- ★小田原の特産物の創出、十郎ブランドなどの促進
- ★イノシシの捕獲促進



# 市民の力が生かされてこそ

## よい市民ホール（芸術文化創造センター）ができる

### これまでの経過

市民ホールの建設には、市として新しいホール建設への計画を始めたのは、昭和61年からで長い経過があります。

前計画の（仮称）城下町ホールの建設は、奇抜なデザインの全国に例のない湾曲型の実施計画となり、そのため市民や専門家から音響や使い勝手が悪いと、大きな市民運動が起こり、市民をはじめ36,000の署名が集まり、（仮称）城下町ホールの見直しとなりました。加藤市長は「市民が主役」として市政運営に努力し、ホールの問題も市民や専門家と共に議会とも議論し、ホール建設を推進してきました。しかし突如として市長は計画の白紙を宣言。

## 市は業者任せの事業提案に転換

市は今迄の実施設案を入札不成立を機に、関係者にはかることなく、新居設計事務所案の設計を破棄し、「民間事業者に事業提案」とする方向に進めました。議会からも異論やきびしい追及もあります。

- ・これまでの費用が無駄になる
- ・新たに設計案、諸経費が発生
- ・設計、施工のチェックが出来ず、品質の保証がない
- ・今後50年使い続けるホール、中途半端では負の遺産



## 使い勝手が良く、音響抜群の設計

現在の設計（新居千秋氏）は、市や専門家、設計者等が力を合わせて作り上げてきた、使い勝手が良く、音響も抜群なものです。日本有数の技術を誇る永田音響が行っています。大ホール1,000席どこも音響や視覚は良いものとなっています。

入札不調は全国でおきており、東京オリンピックを控えての件費や資材費の高騰でその対応をとっても不調となりました。その要因をより深く分析し対応することが求められました。

## 入札不成立の対応

### ①小ホール分離案

当面小ホールを分離し、大ホール、大スタジオ等先に整備する。

### ②大ホールを小ホールとして使う案

大ホールを部分照明、エリア空調で小ホール的に使用し、レベルアップしている大スタジオの小ホール機能を上手に使い分ける。

### ③現設計の品質を落とす事なく予算内(70億円)で建設可能

### ④小ホール分離でランニングコスト・人件費を含む諸費用を減らすことが出来る。

### ⑤小ホールは市民の要望が高くなったときに検討して作る。



芸術文化創造センター完成予想図  
(小田原市発行の実施設案概要版より)

## 業者丸投げ（事業提案方式）の見直しを

市のこのようなやり方に対し市民が立ち上がり運動が起きています。

# 「介護従事者の勤務環境改善及び処遇改善の実現」を求める陳情

## 日本共産党と無会派議員の4名が賛成

日本共産党を代表し田中利恵子議員が以下討論を行いました。

陳情趣旨に2015年の介護報酬改定で介護職員処遇改善加算を強化しましたが、同時に基本報酬が引き下げられ、事業者は経営後退による賃金の引き下げや、職員採用の非正規職員への切り替えを実施するなど、追い詰められているとあります。

2012年度の介護報酬改定では、介護職員処遇改善ということで、働く人の環境整備や賃金を改善することを目的として、「介護職員処遇改善加算」が新設となりました。つまり、2015年度の改定でその部分は拡充となりましたが、それでも介護職員の離職等によって人材不足が解消されない実態があると言われています。今回の改定により、特別養護老人ホームや通所介護などに対する基本報酬を引き下げたことが要因にあると思っています。

国全体で今回は2・27%のマイナス改定となりますが、金額にすると、総額2,270億円にもなります。高齢化が依然と高い中で、介護される方が増えていくのは当然の事ですが、それには介護する人手不足をなくさなければなりません。今のような大幅な介護報酬引き下げでは介護体制は良くなないと考え本陳情の趣旨、陳情項目に賛成いたします。



## 黒部市国際文化センター「コラーレ」を視察

吉田ふくじ議員は昨年12月22日（火）富山県黒部市の「黒部市国際文化センターコラーレ」を視察しました。

入札不調になった「芸術文化創造センター」の分割提案（設計者新居千秋氏）の大ホールを小ホールとして使う、実態を見てきました。

コラーレは平成7年(1995年)11月3日に開館しました。新居氏の設計によるものです。当日は学生によるダンスパフォーマンス競技がありました。

定員900人の大ホールに約250人でしたが、舞台中央に観客が集まり、みんな楽しんでいました。座席も舞台に対して平行ではなく、舞台中央に向けており、ゆったりとして座り心地が良いものでした。舞台空間も舞台照明も300席、400席、700席と小ホール的に使うことが可能です。現設計による小田原市の大ホールも、小ホールをホールインホールとして使えることが確信できました。



部分照明・部分空調で大ホールを小ホール的に利用している黒部国際文化センター「コラーレ」



日本共産党の  
無料法律相談

担当弁護士  
岡村三穂

次回  
3月1日（火）  
4月5日（火）  
午後1時より

※予約制ですので、相談される方は、関野、田中、吉田までお申し出ください。

### 法律相談・市政・生活相談は下記へご連絡ください

	TEL/Fax	住所
関野たかし	42-0316	曾我岸90
田中りえ子	35-5389	扇町1-6-2
吉田ふくじ	49-3759	南鴨宮3-9-8
(市役所 市議団控室 33-1789)		
EX-IL(代表) tanakarieko@nifty.com		